

# けふばあちゃんからの手紙(7)

— まこちゃんへ —

(じゃりんこ文庫 乾 京子)



比良山に雪、真っ白い伊吹のお山も、お天気の良い冬の日には大津からも琵琶湖の奥に見ることが出来ます。この風景が一年のうち一番好きな風景です。この前、守山的美崎公園近くの菜の花畑を見に行きました。風は冷たいのに、黄色の菜の花を見ていると、(ああ、春も近いなあ)と思えます。

お元気ですか？先週の文庫の日、5年生の子に「おばちゃん、何歳？」って聞かれました。

「何歳だと思う？」

「う～ん、28歳？」

「そりゃ、サバの読みすぎじゃない？700歳？かも？」

うっ、これもサバの読みすぎ？……本当のところ、今年は70代最後の年になってしまいました。つい、うっかり…という事も増えてきて、なんと参加申込していた講演会も当日忘れていて、夜になってから思い出すという失態もやってしまいました。まこちゃんの成人式の着物姿の年賀状をいただいてから、もう何年も経つのですから、けふばあちゃんがどんどんおばあさんになっていくのも無理はないですね。

まこちゃんは、おかあさんのお腹にいる頃からの常連さんで、「じゃりんこ文庫」のアイドル的存在でした。(ええ～っ、そんなあ。)って思うかもしれませんね。でも、今回、「じゃりんこ文庫日誌」を読み返していたら、赤ちゃんの時のまこちゃんから、1年に300冊以上の本を借りだしていき、おすすめの本を教えてくれるようになるまで、日誌を読み返していると、その時その時のまこちゃんが目に浮かんできます。ちょっと、日誌から拾ってみることにしましょう。

1998年1月29日

春木さんのところのまこちゃん、先週は抱っこしてもどうもなかったのに、今日は、人見知りをするようになって、おかあさんでないとダメ。だっこすると、真っ赤な顔をして怒る。日々成長してるんだなあ。

1999年1月21日

「ネコの大王のトムテルドラムって知ってるかい？」今日ようやく意味が分かった。何度も聞いているのに、そうか、トム、いっしょだったんだ。Kさんより、蒸しパンケーキの差し入れ。お話の後で、みんなでお茶にする。まこちゃんが、♪あかしろきいろ♪とか、♪ぞ～うさん、ぞうさん♪とか歌を歌っている。早いなあ、子どもって大きくなるの早いなあ！・・・

2000年4月6日

まこちゃんが“おばちゃん、読んで！”と『ババババ』アネット・チゾン/タラス・ティラと『アンパンマン』やなせたかし作の本を持ってくる。その後、『ぞうのババール』ジャント・ブジュノフ作がテレビで放映されているというので、ババールを読んでいるうちに、まこちゃん、スウスウと眠ってしまう。おかあさん曰く“今日は、文庫の日だからお昼寝しておこうね”って、何冊も読んだんですけど、「けふばあちゃんのお家に行く日だ。」って興奮して寝ないんですよ。安心して眠っちゃったんですね。“

2000年貸し出し冊数、329冊。翌2001年386冊、2002年313冊。  
(因みに、「じゃりんこ文庫」で1年間に3桁の貸し出し冊数の子は、まこちゃんと樹くん—100冊から200冊—のみ)



2004年3月18日

まこちゃん、『スズナ姫』富安陽子さく・飯野和好え読了。“おもしろかった！おばちゃん次は？”と、『魔女の宅急便』角野栄子さく福音館と『大おぼさんの不思議なレシピ』柏葉幸子さく・偕成社を持って帰る。樹くんも、『冒険者たち』『ガンバシリーズ』『グリックの冒険』斎藤敦夫さく・岩波書店みんな読んじゃって、頭の中は、ネズミたちでいっぱいだそう。

2004年7月15日

樹くん、2時過ぎからやってくる。宿題の百人一首をやって、文庫の準備を手伝ってくれる。

“ああ、暇すぎ、たいくつ！おばちゃん、なんか作ろう！”

で、仮説のペットボトルで噴水づくり(ヘロンの噴水)、でも少々空気が漏れ、よって、水が漏れる。が、噴水は成功。見ていたMちゃんの“ふん、そんなのおもしろくない！”の反応に気をそがれる。まこちゃんは、そんなMちゃんに本を次々紹介している。しかし、Mちゃんの反応はいまひとつ。

“そんなのおもしろくな～い。”

《すなおに楽しむ喜び》それがそがれてしまう事への反応。まこちゃんのしんどさは、そんなところからくるのだろうか？ご近所故にそれを見ていたおかあさんも少しつらそう。一生懸命さが余計につらくなるのだろう。少し、気を抜かないといけないのかなあ。しかし、《いい加減》《ほどほどに》これが意外と難しい。

《うつくしい》まこちゃんと M ちゃんの会話にでてきて、“うつくしいってどういうこと？”と聞いてみる。

“うつくしいってな、きれいってことやで。知らんの？”

“かわいいってこともあるで。”

私は、『よあけ』ユリ・シュルヴィッツさく・え福音館書店をこの時読んであげたらよかった！と、後で思ったのでした。

## 2005年1月20日

…新しく来られた牟田みかちゃんに、まこちゃんと M ちゃんが文庫の本の分類色分けやカードの書き方を説明したり、本を選ぶ手伝いをしたりしている。よく考えたら、私は何も説明していなかった。学校に友だちができたんだなあ。そして、その人を連れてくる。ここでは、まこちゃんは少し先輩であること。まこちゃんが自信をもって話ができる場であること。読み聞かせも上手、“さすが！！”と思ってしまう。表現力も豊か、やっと、学校にも広がりができたんだね。よかったね。“今まで読んだ本の中で『やまんば山のモッコたち』富安陽子さく・福音館書店が一番好き！”と話してくれる。

## 2005年5月26日

…あきちゃんのおにいちゃん、ふゆとくんは双六が大好き。今日は、自分で考えて作って、遊びだす。みかほちゃん、樹くん、まこちゃんがやってきて、“あそびにきたよ～”とみんなで遊びだす。

“おばちゃん、おかあさんがいない時は、ババア！！って言うっていい？と、まこちゃん。

“それはいやだ！やまんばならいいけど。”

“ええっ！”



## 2005年6月30日

お湿りの雨でラッキー！まこちゃんがふゆとくん、あきちゃん兄妹に紙芝居をしてくれる。

『いないいないばあ』『さぎとり』『おどるドラゴン』と読んでくれる。Nさんが、

“おねえちゃん、何年生？”と、聞く。

“2年生！”

“ええっ！2年生！！もっと大きいと思っていた。4年生か5年生かと思っていたよ。上手だねえ。すごいねえ”

と感激。まこちゃんは、にこにこ…。それを眺めている私もにこにこ。

## 2005年7月14日

まこちゃん、紙芝居を読んでくれるつもりだったのに、今日はけふばあちゃんが読んでいたから、少しおへそを曲げてしまう。“読まない！”と帰っていくが、ドアを開けて、覗いている。みかちゃんも紙芝居読みたかったのに、まこちゃんに遠慮していたんだって。この次は頼もうかなあ。Nさん兄妹が、幼稚園で教わった「おはなしのはじまりの歌」を歌ってくれる。子どもたちなりに自ら自分でできることで参加しようとしている。《自分が何かをしたい》と思うこと。いいなあ。うふふ…と眺めている。みんな、育て！！育て！！

## 2005年7月28日

みんなより少し早く来たまこちゃんたちとちこちゃん、お姫さまゴツコを始める。

“おばちゃんは召使になって。ちこちゃんがお姫さまでまこがペットのチーターのミント。おばちゃんがエサをやっ

たりお散歩させたりするの。いい？”

すっかりチーターのまこちゃん。ちこちゃんも言葉遣いが  
すっかりお姫さまに変身。子どもの遊びは、どんどん広がる。  
やがて、お茶の時間。いつものおままごとセットでティタイム。



### 2006年2月23日

まこちゃんが『こそあどの森』岡田淳作・理論社8巻の感想をいっぱい話していつてくれる。

“おもしろかったよ。『ぬまばあさんの話』、わたし、知らない人に声をかけるの苦手だもん”

といいつつ、おかあさんの手づくりクッキーをもって、

“あの～、これ、好きなのとってください。！”と小さな声で何度も何度も言っている。苦手だと言いながら、本当は、挑戦したいんだ。…でも、他のおとなの声が大きいから…でも大丈夫。ちゃんと聞いている人いるよ。

### 2006年5月18日

Kくん、樹くん、まこちゃんに団体貸し出しの図書館の本のチェックを手伝ってもらおう。おかげで助かった。

まこちゃん、犬を飼いたいんだって。

“お兄ちゃんたちも部活でいないし、おかあさんもお仕事にいつちゃうので、まこちゃん一人になるからね。だから、犬を買ってもらおうの。夏休みにするか、その前になるか？マコはね、夏休みの前がいいんだけど、…最後はね、お父さんが決めはるの。”

“おばちゃん、まこちゃん好きだっていう人、何人いると思う？”

“さあ、10人くらいかなあ？”

“4人だよ。男の子。”

“その中のどれか、まこちゃんも好きな人いるの？”

“一人だけ。あとはふざけん坊だもん”

今日は、ゆっくりまこちゃんとの会話をたのしんでしまった。

### 2006年6月29日

…まこちゃん、犬を飼うことになったんだって！よかったね。チャメだったかな？チョコ？いや、チャコだったかな？ミニチュアダックスフントのクリームと黒の毛が混ざったんだって。よかったね。まこちゃんの願いがかなったね。

何だかね、読み返していて愛おしくなってきました。もう、まこちゃんは覚えていないでしょう。何気ない日常の中に、小さな小さなドラマを作りながら、みんな大きくなっていくんだあって、日誌から、今回まこちゃんの記事を拾い上げるだけでも思いました。20年という歳月を経て振り返ると、友だちとの関係もだんだんに変わって行ったり、当座はしんどいと思ったようなことも(ああ、こんなことで悩んでいたんだなあ)と思えたり、ファンタジーの世界にスッと入っていくことが出来たりと、幼い子どもの日々は宝物のようですね。

もう、関東での暮らしにもすっかり慣れてお元気でご活躍のことと思います。帰省の折、また、ふらっと寄ってみてくださいね。それでは、またね。お元気で！